

《2011年6月例会報告》

【日 時】2011年6月9日（木）19:00～21:10（終了後は「ルン」～23:30）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室（東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】「当たり前のありがたみ」を求めて—東日本大震災（宮城県でのボランティア活動）と青年海外協力隊（ケニアでの見通し）を通して考える

【演 者】岸卓巨（中央大学大学院）

【参加者（会員）14名】安藤裕一（筑波大学ハンドボール部OB）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（演者）、笹原勉（日揮(株)）、※佐藤真成（蹴球亭）、嶋崎雅規（帝京高校）、白井久明（弁護士）、※白髭隆幸（日本スポーツプレス協会会員／スポーツ三昧）、名方幸彦（NPO 法人文京教育トラスト）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（シックス）、※武藤豊（日本代表ファン）、山内紘子（大分トリニータレディース）

【参加者（未会員）5名】★今泉大地（川崎市役所／卓球部）、★牛込あすか（Jリーグフォト）、★遠藤汐梨（品川介護福祉専門学校）、★小枝剛志（明治学院大学心理学部心理学科4年）、★三ツ矢道弘（FC西巣鴨03）、

【ルンからの参加者】北原由、田中理恵

【報告書作成者】※上野直彦

注1) ★は初参加のため参加費無料 ※は2011年度から入会

注2) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

「当たり前のありがたみ」を求めて

東日本大震災（宮城県でのボランティア活動）と

青年海外協力隊（ケニアでの見通し）の事例を通して考える

岸卓巨（中央大学大学院）

○ 岸卓巨氏の自己紹介

- ・1985年11月27日生（25歳）
- ・都立小石川高校卒（在学中よりDUOリーグの運営に携わる）
- ・中央大学法学部国際企業関係法学科卒業（在学中、2度南太平洋バヌアツ共和国を訪ねる）
- ・日本公文教育研究会釧路事務局
- ・中央大学大学院総合政策研究科修士2年休学中
- ・大学を休学して青年海外協力隊へ。2011年2月に合格、後に派遣先はケニアに決まる。そんな中、東日本大震災が発生…

I. 災害ボランティアに関してースポーツの力、サッカーの力

1. RQ 市民災害救援センターでのボランティア活動

大震災のニュースを見て「自分にできることはないか？」を模索していました。早く現地に行きたかったが、諸事情あって東京に留まり、チャリティ企画を実施します。しかし現地で災害ボランティアをやりたいという気持ちは強くなるばかり。

そんな頃、RQ 市民災害救援センターの存在を知りました。

この RQ 市民災害救援センター（以後 RQ）には 3 つの特徴があります。1 つ目は「NPO 法人日本エコツーリズムセンター」が母体ということで、自然体験活動等で培ったスキルを今回の被災地救援に活かして活動しています。

2 つ目は「ボランティアのためのボランティア」も募集していることです。RQ は今回の震災でできたプロジェクトチームであり、職員はいません。また NPO 法人でもありません。なので、3 日いればベテラン、という感じです。逆にいえば、様々な才能・スキルを持った人達が自由に活動できます。

3 つ目は、内容・場所・期間において、幅広い活動を展開しているということです。活動期間は、ある程度落ち着いたら解散する予定で、3 月 14 日～6 月末を第 1 フレーズの緊急支援期、7 月から第 2 フレーズを迎えます。活動拠点は、宮城県北部の登米に現地本部を置いています。南部の石巻周辺はアクセスがよく、ボランティア団体が多いのですが、北部は少ない状況です。登米の本部のほかに、海沿いに 3 ヶ所の拠点をつくっています。登米では廃校になった鱒淵小学校を使用、体育館の中でテントを張って寝泊りします。この学校の校舎は避難所にもなっています。拠点のひとつは唐桑。もうひとつは歌津。歌津は今も、電気・ガス・水道などのライフラインが回復していません。3 つ目は河北、石巻の近くにあります。ここはボランティアの数も多く、ボランティア同士の情報交換も多い地域です。歌津では、韓国からのボランティアや食料支援も見られました。

ボランティアの際に必要なものは、安全靴タイプの長靴、軍手とゴム手袋、防塵マスク、帽子かヘルメット、ゴーグルです。

2. ボランティア活動の変遷

1) とにかく物資が足りなかった活動初期

阪神大震災とくらべて範囲が非常に広く、なかなか物資が届かない。

阪神大震災の時は、被災地の外側から届ける方法があったが、今回はそれが出来ない。

NPO も、地元とつながりがないと活動ができない。また拠点設置もあり得なかった。

2) 避難所の外に見捨てられた被災者が

物資を届ける際に、被災者から状況を聞いたり、当時の話を丁寧に聞きとることも大事。それによって気持ちが和らぎ、本当に必要な物資・サービスは何かを話してくれました。

3) 現地の活動規模の拡大

ボランティア希望者数の急激な拡大にも、受け入れを止めることなく対応できた。

しかし、ゴールデンウィーク以降は、ボランティアの数が落ち込んでいる。(※現在は 100 名くらい)

4) 物的支援から人のつながりへ

運搬・力仕事だけでなく、現地で活動できることは沢山ある。

3. ボランティアの業務内容

以下のような活動があります。

1) 総務

ボランティアの受付、各拠点との調整、外部との折衝など。
事務作業が得意な方、長期滞在の方大歓迎です。

2) キッチン

ボランティア用の食事を準備する担当です。(ちなみに RQ の食事は美味しいです)
主婦の方、男性の方、皆さん大歓迎です。

3) デリバリー

小さな避難所や、支援物資が届かない家から、会話を通してヒアリングを行い、必要とされる物・人・サービスを届けます。(車の運転ができる方、車をお持ちの方が優先的に配属されます)

4) フロア

全国から送られてくる支援物資の受取り、管理、棚出し。体育館内での作業です。
現在はピンポイントで何が欲しいというニーズがあがってくる。それに合わせて仕分けする。

5) ひまわり

阪神大震災の時にも活動していた「ひまわりおじさん」が行っている。避難所になっている小泉中学校にて、心のケアをテーマに活動しています。
シャワーサービスや子どもの遊び場、サロン(一緒にお茶を飲む場)を提供しています。

6) 架け橋

地元の工藤さん提供のマイクロバスで、水の出ないお宅の方を温泉に送迎するところからスタートしたチーム。今は子供たちを遊園地に引率するなど幅広く架け橋を築いています。

7) チーム鱒淵&登米

ボランティアセンター横の鱒淵小学校校舎には、南三陸町から避難された方々が暮らしています。
その方々と交流します。地元の方々から、お風呂場の提供もいただいています。
※その他の活動として、理容美容など、個人の職業・特技を活かした活動をしています。

8) 会議の進行役

また、下記の会議の進行役として活動しています。

- ・「南三陸町の懐かしい未来を実現する会」…震災の町をどうやって再建していくか。
- ・「伊里前小、名足小交流会」…名足小は学校が使えないので伊里前小の校舎を借りている。
その際、子供同士のコミュニケーションを促進するためレクリエーションを行った。
- ・「ふくしまキッズ夏季林間学校」…福島の子どもたちが夏休みに思いっきり遊ぶために、北海道へ引率しようという企画しています。福島に拠点を構える自然学校「あぶくま NS ネット」の進士徹氏が実行委員長。 活動支援金募集中 <http://fukushima-kids.org/>

4. 私が行ってきたこと、感じたこと

- ・各拠点間、東京本部との間で情報のやり取りがスムーズに行われるように。
⇒それぞれに目の前のことに追われて忙しい。システムを変えることによってうまくいくこともある。しかし、システム化では解決しないことも多い。
被災者といっても多種多様、「被災者」とひとくくりに言うのは無理がある。
- ・ゴールデンウィーク後、ボランティア数が減少する中で RQ の存在を知り、現地ボランティアに言ってみようと思う人が1人でも増えるように。
⇒ボランティアに行く人の変化。そういう人達に情報発信する難しさ、手取り足取りで説明すべきか難しい。

5. スポーツの力、サッカーの力

大事なことは人のつながり。何をするのも一人ではできない。
スポーツ（サッカー）には、人々のつながりを促し高めていく力がある。
柱となるのが次の3つ。

1) ネットワーク

⇒サポーター・ネットワークなど。

⇒地域の拠点となるクラブ

サポーター同士のつながり、選手・クラブの知名度を活かした支援がある。

(以下は参照です)

サッカーを愛する人にできること

<http://dekirukoto-football.jp/b/cat7/index.php> (2011.06.07)

ベガルタ仙台「物資及び作業ご協力者募集のお知らせ」

http://www.vegalta.co.jp/contents/news/press_release/2011/03/post-539.html(2011.06.07)

元気プロジェクト

<http://www.salon2002.net/project/dekirukoto2011.html> (2011.06.07)

Team Japan (チームジャパン)

<http://teamjapan.ne.jp/index.html> (2011.06.07)

2) レクリエーション

スポーツの「楽しさ」が生活に活力を与える

被災地の人々はストレスが高まっている。仮設住宅の抽選の当選者・落選者の間でも。

なので、お酒のトラブルも多い。ストレスのためにもスポーツは有効だと思います。

3) チームワーク

有効なボランティア活動を行うためには、その場で出会う人たち同士でチームをつくる必要がある。

チームのリーダー的役割を担う際や、これまで活動を続けているチームに加わる際に、スポーツで培ったチームワーク構築のスキルが活かされる。

この3つの観点から、震災後、これまでスポーツが担ってきた役割・活動内容を整理すると同時に、今後何をすべきか考えられないだろうか？

◆ディスカッション

中塚：震災当初から連休に突入するぐらいまでは、J リーグも大学サッカーも延期になっていたし、計画停電の問題もあったので、こちら（都内）にいても被害の大きさが実感できたが、連休あけからいろんな活動が再開し、こちらでは日常生活が戻ってきた。日常に戻ってしまうと、大震災のこと、被災地のことはメディアを通して知るだけで、実感が徐々に薄れてきているのが現状ではないか。岸さんの報告を受け、やっぱり何かやらなければと、改めて思いました。嶋崎さんも被災地で活動されたようですが…。

嶋崎：気仙沼に親戚が住んでいて、家が2軒流されました。食料や大人の衣料はありますが、子供の衣料（下着）が全くない。田舎がすごいのは、農家の人や米や食料は届けてくれる。だから食料はありますが、ただそれ以外の物がない。医師や看護師はたくさんやって来て、医療も充実していますが、問題は薬剤師が入ってこない。処方箋はどんどん出されるので、町でひとつ残った調剤薬局は大変な状態。あと水がない…。これで困るのが水洗トイレ。実家は水洗だったので、隣のくみ取り式の家に、1日1回借りに行っていました。もうひとつは、車を持たない人の問題、お年寄りが孤立してしまう可能性がある。何をするにしても車が必要です。地域の繋がりの少ない東京でもし起こったら、大変なことになると実感しています

中塚：ガソリン問題は？

岸：今は割と手に入ります

嶋崎：その問題は被災から2週間くらいまでですね。被災直後で走っていたのは自衛隊とタンクローリーの車だけでした。当初は物資運搬車優先でした

岸：ボランティア募集の説明会でも、どの交通機関で行くべきかよく聞かれます。もし自分の車をお持ちなら、それで現地に行かれたら、それが現地での足になります

嶋崎：現地で見えてきた感想としては、鉄道は復旧しないのでは…。元々、赤字路線です

名方：NPOが信頼されない部分あるというお話がありました

岸：義援金を集めることを名目に、別の活動の資金を集める団体とか。あと南三陸町では、津波発生直後から窃盗が多かったと聞きました。

笹原：今は被災地でいっぱい愚痴が出ているようです。例えば、義援金をもらう手続きが煩雑で、それでも愚痴があるらしいです

岸：新しいことをやろうとすれば、何がしかストレスが起こります。例えば、地域で使えるお風呂ができれば、誰が掃除するのかという問題が起こります。

名方：社会福祉協議会（社協）で10年間ボランティアしているのですが、現地でのNPOとの棲み分けはあるのですか？

岸：社協にもよります。石巻では社協が会議を開き、上手く人の割り振りをやっているようです。逆に、社協が縄張りを守ろうとして、NPO等の活動が制限される場合もあります。例えば、ある地域では、ボランティアセンターは私達がやるから、RQではボランティアセンターとは名乗るなど言われたことがありました。

嶋崎：南三陸町は、市町村合併の影響が大きいと思います。元々、志津川町と歌津町という2つの町でした。マスコミに取り上げられていたのは志津川町のほうで、町中が流されてしまった。元々違う行政区で、何もない時はよかったですけど、事が起こるとうまくいかなくなっている。行政区は合併しても、住民はそうではなかった。

武藤：サポーターの関わりについての話の中で、もっと多様性というか、サポーターにもいろんな人がいる。サポーターだけじゃなく、いろんなアプローチの仕方があると思います。サッカー関係者の方は、他にもいっぱいいると思います。あと、次に求められるのはメンタリティだと思うのですが…

岸：私もそう思います。例えば、ボランティア活動をスポーツジャーナリストの方が取材するとか、スタジアムの照明の担当の方が活動されるとか。人材のネットワークは大事だと思います

中塚：人のつながりという関連で。私は筑波大蹴球部同窓会茗友サッカークラブに深くかかわっているのですが、この組織は全国に会員がいます。東北にもいます。会員の無事は確認されましたが、ある会員から、周辺の大変な状況と、支援を求めるメールが、その当時必要だった物資のリストとともに届きました。それを茗友SC会員にEメールで配信したところ、全国の会員から支援物資が、リクエストされた方に直接届けられ、効果的でした。また、宮城教育大で教員をやっているI氏からは、「うちの卒業生で小学生の教師をやっている人が大勢いるが、中には海沿いの学校で教鞭をとる者もいる。津波で子供たちのサッカー用品が全て流されてしまったので送ってもらえないか。届いた物資は、自分が責任を持って届けるから」というメールをいただき、これも茗友SC会員に送信しました。同様に全国の会員からI氏宛に物資が届けられ、そこから必要とされているところにI氏が届けました。このように、同窓会やOB会組織を使って何かできるのではないかと思います。

白井：カルガリーでスキー選手だった結城さんとは友人で、彼も同じことを言っていました。上村とか皆川が、ウェアを早い時期に送りましたよね。あれも選手のネットワークを使ったものらしいです。

中塚：新聞で読んだのですが、塩釜FCの小幡さんのところも拠点になっていたみたいですね。地域のクラブがいろんな意味でネットワークのコアになっている。

笹原：韓国の人たち以外で、外国からはボランティアが来ていましたか？

岸：インドの方とか内モンゴルとかヨーロッパ系とか。それは個人で来ていて、日本在住の人もありますし、このために来た人もいます。韓国のように団体でというのは、なかなか見ないですね。これからはないかなと。日本旅行などが外国人のボランティアツアーを募集し始めましたし。

笹原：韓国の人達は原発の問題は気にしていませんでしたか？

岸：その人たちはあまり気にしていませんでしたが、団体としては気にしているようで、第1弾で

来た人たちは兵役あがりの人たちでした。中国の人たちから聞いたのは、中国の場合、四川地震の時に自分たちの中にも風評被害を受けている人がいるということで、原発に対する考えは個人によって差があるそうです

参加者：被災者からのリクエストで、スポーツがしたいからスポーツ用品を送ってほしいというのがありますか？

岸：サッカーをしたいというニーズは高まってきていると思います。最初の頃はまず生活第一で、食料・衣料や医療関係のニーズが多かったのですが、それらがまかなえると余暇に関心がある。GW後に始まった学校も多いですし。

嶋崎：石巻のラグビースクールとか、中学校からリクエストが出てきたのは、最近ですよ。ひとつは、学校が再開した大きいと思います。仲間が集まれば、ラグビーがしたいと。

中塚：先日 DUO リーグの試合で、ある都立高校に行ってきたのですが、一人だけユニフォームが違う子がいました。福島で被災して疎開している子でした。東京都の学校で受け入れる制度があることで、このような形で活動場所を変えている高校生もいることを知った。「その子の登録はどうなるのか？」という話になり（笑）。やらしてあげたらええやないか…

II. 青年海外協力隊に関して一私が目指しているもの

1. 青年海外協力隊とは何か？

1) 青年海外協力隊とは？

独立行政法人国際協力機構（JICA）が行うボランティア派遣事業

応募資格：満 20 歳から満 39 歳の日本国籍を持つ人

（満 40 歳から 69 歳はシニア海外ボランティア）

職種：120 種類以上（農林水産、教育文化、スポーツなど）

派遣期間：2 年間

75 か国に 2,479 人（うち女性 1,508 名）を派遣（2009 年 7 月末現在）

募集期間：春と秋の年 2 回です

2) 今回の（岸氏の）募集と選考はどのように為されたか？

一次選考：書類審査（応募動機、これまでの活動内容等）

健康診断

※職種 1 つと派遣希望要請内容 3 つを選んで応募する

二次選考：面接、語学力（TOEIC330 点以上）（1 日ばかり）

問題例）青少年活動（岸氏の場合）

- ・青少年活動の指導者として必要な資質について具体的に述べてください
- ・途上国の青少年を取り巻く諸問題に対して、あなたはどのような貢献が出来るか具体的に述べてください

職種：青少年活動 倍率：約 10 倍

選択した要請内容は…

1. ミクロネシア：私立高校での日本語、学習指導
 2. ボリビア：日系人社会とボリビア人社会をつなぐ
 3. ザンビア：寺子屋的学校での指導
- …ですが、ケニアに決まりました。

国内積立金：2,120,000 円＋現地活動費が支給されます。

2. 今回の派遣について

1) 派遣内容は？

派遣国：ケニア

受入省庁：ジェンダー・児童・社会開発省

配属先：マリンディリマンドホーム（ナイロビから東 500km）

犯罪を犯した児童を裁判所がそれぞれの処遇を決定するまでの間留めておく未成年拘置所
<求める人材>

基礎教育としての、スポーツ指導の担当及び児童の興味関心を引き出し情操教育のできる人材を求めている。ボランティアの趣味や特技を活かした工作・音楽などの指導も期待されている。

2) 派遣国－ケニア共和国とは？

公用語：スワヒリ語、英語

首都：ナイロビ

人口：3980 万人(2009 年)

面積：日本の約 1.5 倍

宗教：キリスト教、イスラム教、伝統宗教

1963 年にイギリスから独立

GDP (MER) 302 億ドル GDP(PPP) 604 億ドル

通貨：ケニア・シリング

2010 年 8 月 4 日 国民投票によって新憲法の成立が決まった。

大統領制、一院制

コーヒー、茶、園芸作物などの農産物生産が中心

在留邦人 670 人 在日ケニア人 350 人

3) 派遣先のマリンディとは？

- ・バスコ・ダ・ガマゆかりの地
 - ・イスラム色が強い
 - ・中心部は観光地
 - ・炊き込みご飯にペーストをのせた「ビリアニ」
 - ・サモサやチャパティも売られている
- ※今はマサイ族も携帯電話を持っているそうです。

3. このような状況の中で何をするか？ 私が目指しているものは…

- ・子どもたちが地元に戻ってからの行動に結びつくサポートがしたい。
⇒人をつなげられる人を育てる

- ・スポーツ・PA（チームビルディング）・ゲーム・クラフトなどを利用して
- ・課題：コミュニケーションが取れるようにスワヒリ語を覚える。
具体的なプログラムを考える。
活動成果を図るための指標を考える。

※今後の最大の課題は…スワヒリ語を覚える！

具体的なプログラムを考えなければいけない。

◆ディスカッション

岸：私は教員免許もありませんし、裏方で活動する方が得意な中で、今回は実際にスポーツや勉強のプログラムを提供していく必要がある。Blogなどで発信していきますので、是非情報とかあれば、よろしくをお願いします。これからも皆様にサポートして頂きたいと思います

三ツ矢：ケニアに2年間行かれるわけですが、最終目標は何ですか？

岸：派遣内容からすると情操教育ですが、それ以上のものはないです。帰国後は、そこで培ったことを活かしてグループ作りとか、NPOとか個人で活動されている人の裏方になれればと思っています。いろんな企業の御用聞きになれればと、ひいてはそれをビジネスにできればと考えています。

中塚：向こうからのリクエストはこれだけ？

岸：もう少しありますが、これが一番具体的です。

嶋崎：現実的な話なのですが、論文にする時に、数値化する指標って難しいと思うんです。ちゃんと（現地の）生の声を残しておかないといけないと思います。自分でこう思ったではダメなので、インタビューして具体的に言葉を記述して、一字一句記録することが必要だと思います

岸：一字一句記録するためのスワヒリ語の能力が必要ですね（笑）

嶋崎：とりあえず録音して（笑）

中塚：現在、未成年の拘置所で情操教育はされているのですか？

岸：わかりませんが、そこまで手が回らないとは書いてました。スタッフも足りないそうです

牛木：児童とは何才くらいですか？

岸：10～18才です

牛木：日本では児童とは言わないよ

岸：そうですね、日本では児童とは小学生のことですよ

白井：あまり決めつけしないで、行ったほうが良いと思いますよ

参加者：以前は、協力隊あがりの人は仕事がないとされていたけど、今はどうですか

岸：最近では企業の採用も増えてきたらしいです

中塚：岸さんが帰国した時に、専従事務局員として雇えるように、サロンも頑張らないと(笑)

安藤：7年前に6週間、コートジボアールに「国境なき医師団」で外科医として活動しましたが、ボールを1個持っていくとありがたがられる。3個持っていくとヒーローになります(笑)

日本では患者に対して事前説明がありますが、現地ではありませんでした。説明責任という考え方がありません。

最後に…

岸：今日のサロンは、東北からケニアの方へ気持ちを切り替える機会にもなりました。知らないことを共有したり、人と人とのつながりを今後も忘れずにいる事が大事だなと、このような活動をしているとつくづく思います。今後とも、よろしくお願い致します

○岸氏からの告知

SAN 主催復興シンポジウム

— 今、私たちにできること —

- ・6月23日(木) 19:00~21:00
- ・会場：東京家政大学
- ・さまざまな視点から震災から3か月経って今私たちにできることを考える。
- ・パネラー：田口大(学生トライアスロン連盟副委員長) 他

ブログ「御用聞き、世界を渡る」<http://ameblo.jp/kogetaku/>